

水城歴史公園

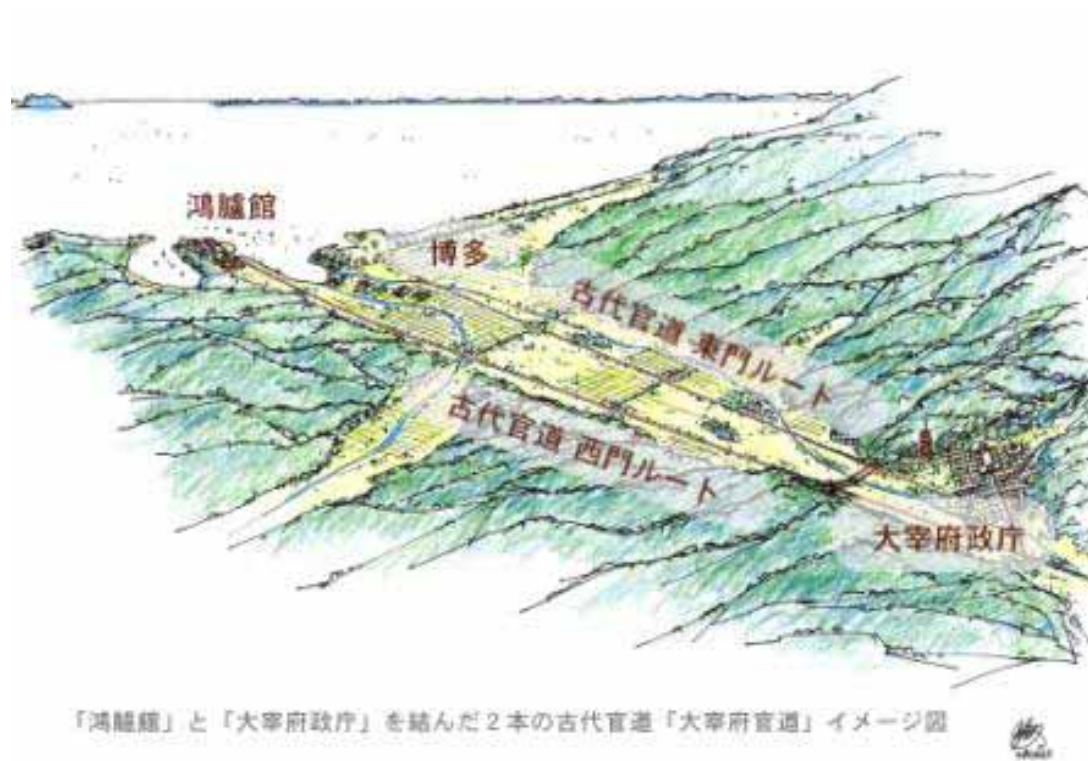
～ 古代官道の東門ルートを通して～

水城の歴史

- ・日本古代の道は7世紀頃の律令国家制定から始まり、中央集権国家である畿内地方を中心として、7本の道が完成します。また、大宰府は西都と呼ばれる九州の中心であったために、外交拠点の太宰府政庁と大陸の玄関口である鴻臚館を結ぶ「大宰府官道」が出来ます。
- ・大宰府官道については、二つのルートが確立され福岡市南区と水城西門を結ぶ「西門ルート」と博多港と水城東門を結ぶ「東門ルート」が存在します。
- ・時代背景としては、今から1200年ほど前の8世紀の奈良時代頃には、この二つのルートが完成していたと言われています。

参考イラスト

<http://kodaikando.yoka-yoka.jp/>



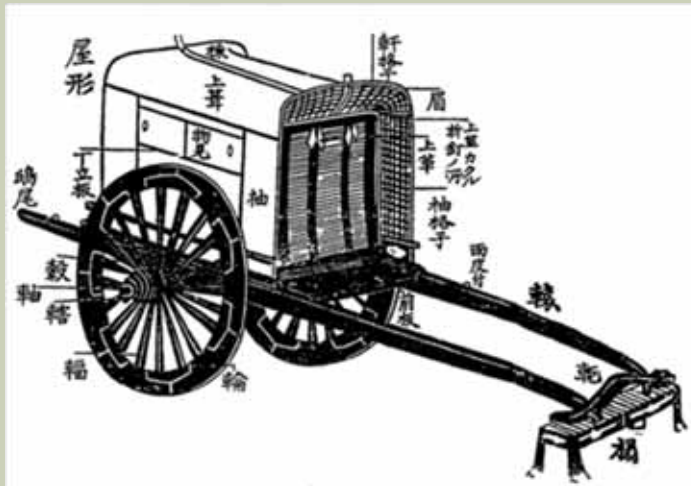
- 古代道路における主な交通手段は徒歩であったが、貴族階級の人々は牛車という乗り物を使用していた。
- 太宰府市の発掘調査結果において、大宰府条坊道路において交通ルールが古代から存在していたのではないかと推測がなされている。
- その記述によると当時の人々は、道の両側を通行人が歩き、真ん中に牛車を通していたと言われている。

古代交通における車両 ～牛車と通行人～

参考資料

牛車 宮殿調度図解 (1905年)

西日本新聞 10月9日



古代大宰府に“交通ルール”!? 牛車と人 分かれて通行 奈良時代 道路にわだち跡

福岡県太宰府市教委は8日、同市都府楼南5丁目の大宰府条坊跡発掘現場で、わだち跡のある奈良時代（8世紀）の条坊道路を発見したと発表した。わだちは路面の中央と左右の路肩に3本の筋を引くように見付き、同市教委は「二輪の牛車（ぎっしゃ）などが道路の左右に分かれて通行していたと考えられ、一定の交通ルールが既に確立されていたのではないかと分析している。

発見された道路の幅は約3メートル。路面には縦方向にいくつもの溝が残され、路面中央と左右の路肩に集中している。わだちとわだちの間は1.0 1.2メートルで、往来した牛車などの車輪間の幅が推測できる。わだちの深い部分は10センチ以上も地面に食い込んでいる様子が分かり、牛とみられる足跡も多数残されている。

路肩の両側には側溝跡（幅2.0 2.5メートル、深さ50センチ）も見つかった。片方（西側）の側溝にはわだちはなく、人や牛の足跡だけが見つかったことから、「荷物を運ぶ車両は道路を通り、それ以外の人や牛は側溝を歩いていたのではないかと考えられる」（市教委）という。

大宰府条坊は、大宰府政庁を北端の中心に置き、碁盤目状に道路を整備した約2キロ四方の計画都市。今回の発掘現場は、条坊の南端に近い、中央より約200メートル西側の地点。発見されたのは南北に走る道路に当たる。

市教委は「条坊道路が高い道路機能を備えていたことが確認できた。古代大宰府の交通事情は文字による記録がないだけに今回の発見は貴重だ」としている。（10月9日西日本新聞）



太宰府天満宮と12頭の牛

水城歴史公園構想

～みんなが遊べる憩いの場を目指して～

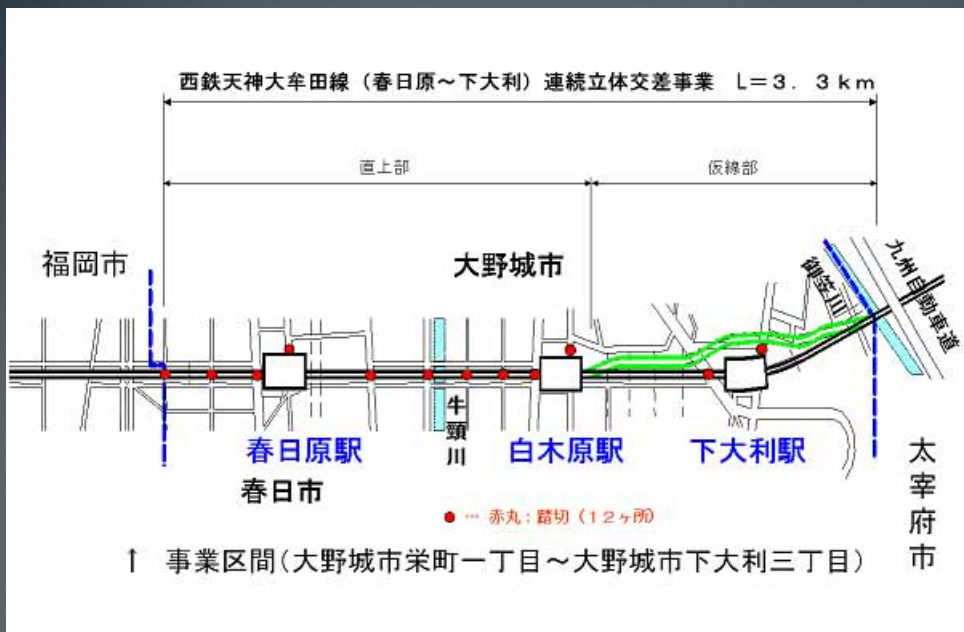
- ◎ 現在考えられている下大利 - 水城の間の遊歩道計画において、水城の官道としての歴史を通して現在西鉄大牟田線の高架工事における仮線の線路を利用して、遊歩道の一部に線路を残すことを提案する。
- ◎ その上で、線路に牛車のような荷車を遊具としておく。これは、牛車の引手に当たる部分を自分たちで引いて動かすものである。勿論、荷台においては人を乗せることが出来、一人でも大勢でも楽しむことが出来る。

構想場所について

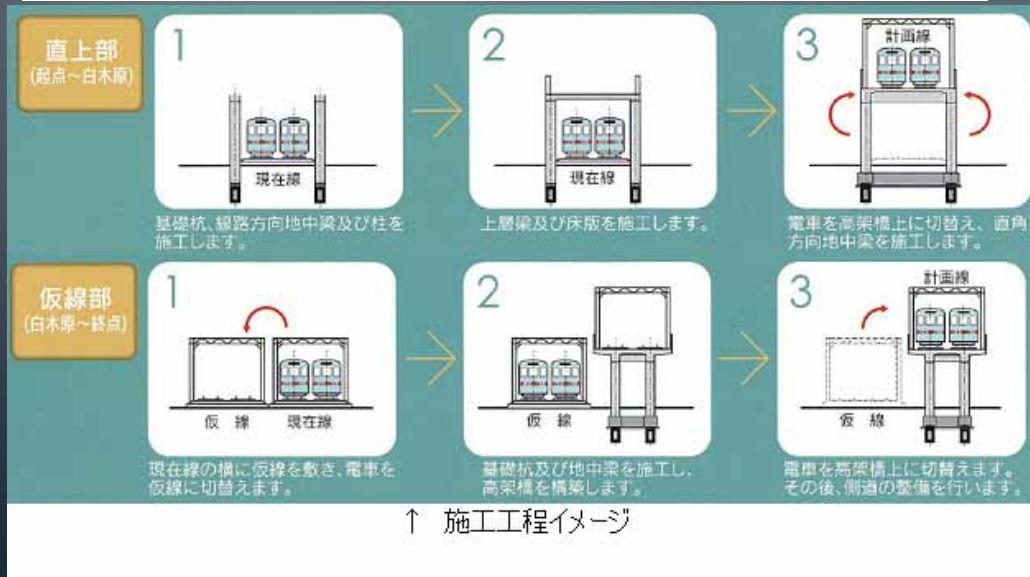
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d12/fouka1.html>

福岡県ホームページ

「西鉄天神大牟田線連続立体交差事業」参照



事業区間の図における下大利駅と御笠川の水城跡に至る部分の間を遊歩道として、片方を通行人専用、もう片方をレールを使った遊具の部分とすることを提案します。

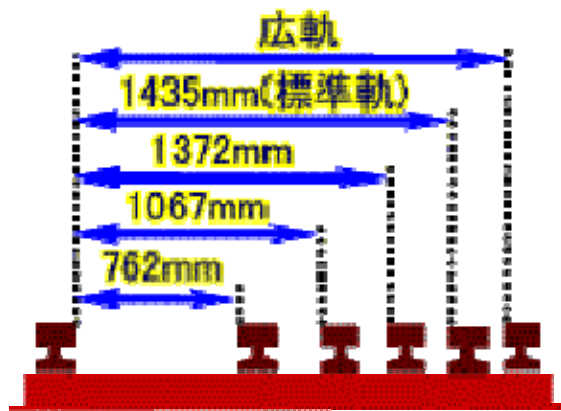


施工工程イメージを見て分かるように、高架線を作るには一度地上線の横に仮線を設けて、その後に計画線に移します。そのため、仮線に当たる部分は撤去される部分になるので、遊具として線路を残したいと考えます。

遊具について



左の図のような、牛車式の遊具を線路の上で走らせることを考えている。また、線路を走らせるため一方通行となるが、方向転換には引手にあたる部分を鉄道車両における座席の様に180°回転出来るようにしたいと思う。



西鉄大牟田線は、この軌間の中で標準軌にあたる。そのため、牛車の車輪の幅が1.2m程度だと考慮しても十分な幅が確保できる。

- これまでの計画は、大野城市が水城跡の整備について考えている「特別史跡水城跡環境整備基本計画(案)」を参考にして考えさせてもらった。
- その中にも下大利から水城跡における歩道計画案が存在し、この計画に付け加える形で今までの提案を行った。
- 現在建設が進んでいる仮線の線路が何らかの形で役に立たせることが出来ないかと考えた次第である。
- なので、水城の官道としての歴史をこのような形でみんなに知ってもらうことが最大の目的として締めくくる。

おわりに ～ 計画の全体像 ～
